

川越名所記

下

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5



Lo  
た

88

武藏 三芳野名勝圖會 下之卷

櫻齋中島孝昌 輯著

清谷山十念寺

境町三有 時宗 相別藤澤清兼元寺末

此寺之四地之代官町廣少路不東北之地也。天保元年辛酉年  
今之地之編りたる古草創り由來ハ四記焼失り之知

開山春禪大和尚

天文元壬辰年十月十八日入寂

538

本尊 三尊阿彌陀佛 立像服燈 初祖一遍上人

二世 高僧上人墨跡小安置 慈野祠 本堂あり

笠虫福祿祠 此笠虫福祿祠ハ秋元庵ノ家中長谷川  
徳吉事ノあり者甲別尖村也之祐清ノ後以神神寺守  
寺ノ又及編り己ノ因者也祠所ノハ山形中山形所也

2826

此福翁と云谷川流あり一百姓とありて福翁と云ふは  
初名諱の福翁と信家とありて此翁と云ふは十三年の  
大反屋敷 寛永中より伊豆屋敷と稱す 大反屋敷 後河内白

御鷹部屋 昔ハ御鷹見田中助作と云人の諱也  
多十に云居たり一也元禄年中生於御割林也丹田中氏也  
江戸ノ月報と云て正慶長迄也

將軍家席ノ御教書と云あり月御書道序と云然  
居り伊方と云御田新田と云り御書道及女海と云り  
子孫と云り江戸伊豆屋敷と云り信子孫と云り谷子孫と云り福と云り里充  
と云り

御茶屋蹟 御書道及女海と云り西流ノ在谷川に臨みて  
秋元彦ノ列業と云り義繁と云り今ハ馬屋敷町と云り

松原町 古井松郷分 其外古井ノ寺ノ寺ノ所ノ町

雲魚山榮林寺 曹洞宗 江州東大郡源昌と云

雲山卷々文新大和尚 寛永十七年九月廿六日入寂

官基 玉室榮琳大姉 慶長公辰子年八月六日卒

廿景琳大沙ハ 河越御城之酒井備後と云り仙母あり

信官基ノ大檀那と云り山と云り古井と云り法名を以て也ハ

西宮山景琳と云り書り一也世文飾あり代り雲魚山景

林と云り書りむ田代と云り表若後ノ福翁と云り也今在府

の南と云り也也と云り也と云り也源昌と云り酒井彦御樹木

一と云り也一と云り也の景母と云り也一と云り也一と云り也

樹木の景也と云り一と云り府川村と云り也と云り也と云り也

水尊

秋也

根檀

大権修利弁  
孝摩大伴

秋葉社

つ日南のちか  
細清羊磨之伴

天照大神社  
白の洞

赤う大神  
編前洞

廿四社屋敷の年細清

御厩下

昔の古少院境口之宮山の中御書院と相承  
て今御厩建つ依り傍の町と御厩有云今御厩中なるなり也。

三ツ家

古少院のちか

上松江町

往古廿四不仙波ゆくけく瀬したる大派せく徳人多く

鱸とゆたう味甚美こ唐土く松江の巨口細鱸ゆかおとく

ふんくそ松江の名付くむ風流の地名くくく

忠義器新六

廿四のい上松江町赤白赤言書流の中国

新六生出の埒玉那

和布傾樞を川村孫書流く二百坪の

子く新六指四家時々赤白言書流の代々年季なるく其生

律義者友の辛事も首尾從勅也赤言書流の代々く

孫言公大切勅也くくも赤言書流の代々く

や更母何ひて世のくくも赤言書流の代々く

くく敬るも赤言書流の代々く

くく敬るも赤言書流の代々く

くく敬るも赤言書流の代々く

くく敬るも赤言書流の代々く

くく敬るも赤言書流の代々く

くく敬るも赤言書流の代々く

くく敬るも赤言書流の代々く

くく敬るも赤言書流の代々く

くく敬るも赤言書流の代々く

善文後の禮可く又及ぬるもあつてしむ時と信く物  
 たりとていふ事ある人もいふはしむる人もあつた事ありしとて  
 くまふしかならざる事とていふ人もありし事ありし事ありし事  
 傳へし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事  
 盛衰はあつた事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事  
 太守の廳に盡く寛政元年西暦七月也くまふの所懐表に  
 ちよとせりし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事  
 痛んで死す人もありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事  
 新六元より早妙より文の道はあつた事ありし事ありし事ありし事  
 ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事

松江市 毎月四の日より五日の間に 龍田の両度と名の  
 市ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事

中松江町 下松江町 昔松江村ありし 上松江町ありし

大河内氏元孫の地 申松江 西側久保町ありし事ありし事ありし事

ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事  
 氏伝守ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事  
 子孫元孫の地とていふくうていふ慶長に大河内言信及  
 河越氏ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事  
 ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事  
 ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事  
 ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事  
 ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事  
 ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事

伊豆守伝網彦ハ実者大河内言信及の馬子ありし事ありし事ありし事  
 ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事

水久保町 此如く昔の傳も亦何色の如く西洋

南久保町 毎三祀 此處に祠の書沙井拾七事と云侍仙波

と毎三の如く一々多敷夜と此所の書と云侍仙波  
と御清せしや今南側と此處より云

堅久保町 南水西久保町と云一異色と云

清久保町 東側と云ありと井あり

大神君 所設宮の時井の水は馬茶のみと云此の如く

清宮の冷多ありと馬茶と上意は信事清久保町と

云或儒者けりると稱羨と云曰く此より京都と極のあり

同承りてと云は伊豆侯京郊より柳のありと取らせ各

方日ついたたことと云一重なり重し甲乙あり一信の家

伊豆侯と云ふことと云一信の家と云ふこと

西側と云一西地は信事町水の入る所と云ふことと云

と此所既佛とあると云一西側と云信事と云ふことと云

意と云一と云は伊豆侯と云ふことと云一信の家と云ふこと

と云一信の家と云ふことと云一信の家と云ふこと

鉄炮町 上松江町と云は鼻町と云ふことと云一上松江町

此所酒井侯の時近ハ馬茶園之伊豆侯と云は時江別園友

村より鉄炮所由と云ふことと云一上松江町南久保町入

りて南側と云ふことと云一上松江町と云ふことと云

と云一柳江侯と云ふことと云一馬茶園先柳江拾七事及吹

撃と云一馬茶園と云ふことと云一上松江町と云ふことと云

と云一馬茶園と云ふことと云一上松江町と云ふことと云

二代目園友信事と云ふことと云一柳江侯と云ふことと云

教ふるに松鼻町への由りて享保十八庚戌の年馬廻り  
道と号す

松鼻町

昭田村分也今昭田村也柳保松鼻氏系あり

四よりして明之松鼻氏天文年中松鼻民あり其後松鼻古  
軍心感譽上人逸しお別かまゝに其子松鼻氏の先祖の  
磯洲 渡古那新芝村に松鼻の神社を築かんとす其松  
鼻何系 渡古那新芝村と云ふ時其子松鼻の氏に  
其徳と善し里俗松鼻指況く宗家あり如く今松鼻祠  
新芝村にあり

孤峯山宝池院蓮馨寺

後土家 系松智恵院末

支嵩山に後土家流白旗流と云ふ十八檀林と云ふ也十八檀林は  
如く善願の智恵院と云ふ寺に新

岡山感譽上人存父大和尚

天正甲戌年  
八月十八日入寂

上人のお別し由系山條お種吉氏康侯く次男あり又母お伯  
叔母大寺の初由り告と感譽上人と生る上人後雅は  
世業と厥山終り傳肇寺に投りて別保し其存版に  
取渡り給譽上人と師りて事りて傳燈戒師に任り  
任りて傳燈の相承信中の善風たり智恵院と云ふ  
定番千歳りて慧子 親下りて過の所千僧と城をす存  
にりて上人百有餘人増し与中其善光親智恵所存意大和尚  
新田大光院居士云新上人臨宗勝新吉中其清嚴上人二世不  
殘上人若所傳由り清嚴上人領林居等寺後系傳燈院  
西岡山坊過意上人請上人云も岡山渡譽上人等皆感譽  
上人の傳中上人の傳りて其傳身に到りて傳燈院

中興廓山上人淨孝大云寺慶若上人亦如之也

周基と川越と城と大道と渡河守政繁宗久と族と母堂

宝池院蓮馨大姉の悲願と廻してけと草創淨土

寺既して感師と拓待り感師後約とて清の意と

宗門の法幢と建つ母時一宗別と檀林の或目壁書木皆

善若く智海と流如く主存亦南山と再河河檀林と

十八の敷と師定檀林師條目亦河是と河是と意と記と

本尊阿弥陀如来 三尊像 安阿弥曼中造今作りて

双々尊像あり 招檀 菩提大沙 圓光大沙 妙亦

釈迦 又珠 善賢 本寺の向首とあり

周山堂 感若上人の師影安堂

地尊堂 石佛立像師長尺斗 本寺に響く

柗女地尊菩薩像を寛永年間 松平侯屋へ献上遊佐

將監ある界文武忌備と武士も魂も生涯地尊菩薩と深

き法一在世の心世尊像と彫刻一没没の利益人々

と深く誓願ありて無礙ありて没没は種々の

多福あり善徳あり卵塔の傍りありり寛保元年の

以て思儀と善若と人々感す因て其事の南同心を

堂とてまゝとてまゝとて自々宗縁法僧よとてとて法祖と

初より親の容へて意をさかかき善道の高塔とて思ひ

毎月二十三日に秋の鳥取の老翁ありてその西來の

師重授を待り善信も柗女とて柗梁も柗女とて建

現存 教若上人師再建と表記と後工匠等



功と積んで今午享和年酉年方七百の層堂と雖も  
 可(莊嚴殿と云一佛威輝を造して空驗振くは身  
 亦大和國高市里の道通(地蔵と換一造り)宛上人  
 所作の地蔵言其(古流う)と持り(同)多(多)藤原  
 高重(り)子(る)を(ら)乃(一)造り(り)の(一)福(記)有(年)若(言)市  
 之(者)性(上人)表(和)元(年)世(年)二(月)廿(四)日(の)日(の)  
 者(の)母(言)像(と)石(佛)の(真)立(く)其(母)の(言)乃(一)目(録)之  
 長(安)觀(世)音 此(言)像(の)家(心)感(答)上(人)の(所)持(持)也  
 唐(門) 昔(其)所(の)山(門)を(ら)一(つ)を(免)又(固)し(久)く(之)廢(之)と  
 寛(政)元(年)丁(丑)年 再(建)所(り)て(唐)門(と)立(甚)美(麗)也  
 撞(樓) 鐘 長(尺)五(寸)五(分)寸  
河(越)才(一)之(後)後(也) 銀(累)之  
 元(禄)八(乙)亥(年)八(月)十八(日)濟(之) 奉(以) 井(上)源(清)

山東小市良勝吉

徳之 木村将監

大智堂 立像之六智也其  
出至吉海作 也其(年)香(殿)其(年)多(町)同(辰)辰

之(夜)祭(ゆ)之(夜)り(等)時(一)を(ら)知(り)也

圖(磨)堂 十一日供其神  
三達川修之 其(ハ)其(事)門(外)西(側)に 櫻(一)り(也) 今(若)若(若)  
即(古)後

入(口)者 之(免)之(信)之(を)信(也)門(之)門(德)世(社)の(也)之(堂)と(稱)之(り)也  
 之(亦)其(年)年(未)也(免)之(り)を(ら)く(一)を(ら)ハ(大)智(堂)と(也)也

西(拾)規(之)社 乃(因)也(也)也

東(照)宮(英) 櫻(野)拾(規)と(其)せ(也)其(る)櫻(野)拾(規)と(其)取

其(山)之(年)創(と)同(也)

秋(葉)洞 乃(因)南(之)山(之)上(之)を(ら)何(時)也(也)河(祇)廟(城)之

廟(佐)御(之)同(之)意(之)也(情)也

辨女天祠 寺の南に林中にありて近來神家の祠の如

稲子 加祐稲荷祠 門前より西にありて

学寮 指舎

蓋山之豊長寺を以て園印之禁止刻れありて即室  
おぬ多思

蓋山十秋ハ毎月十月終りありて蓋山の優婆塞優婆

夷寺形築して路海沿ひありて

近來流岩山中に檜樹と杉多株と植ふるありて池を在

ち置きてありしりて榎橋とて取捨取れりて養生

所の屏風校と交りて中風寺ありて蓋山寺と致く強

人垂客愛せしんを以てありて

蓋山寺の門前ありて  
蓋山寺の東にありて蓋山寺の西にありて

堅門寺の南角に横に古木ありて板と武蔵野の

山の塚の市に板と云亭保年中倒壊して今あり

窪 蓋山寺の北にありて一長ありて

稲荷祠 下松にありて窪ありてありて

寛永年中此所に稲葉寺ありて云云云云

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

道のうらやまに道に十七の女根とありて今當に觀  
きたる節とくはうらんとして身毛をばらあけやうとす  
以信る。猶前の御誓とけしきんと軽とく。悔して根の  
あり常と久んものと疎く。猶前の如儀とすして思  
儀の常ゆりやうく。まきう。ゆく。此猶前と信し。まきうの存  
くううーくや

### 笹の庵

道東根奇作元豊洞やケ各村の祝陽庵と引て蓋と雖く  
軍右衛門ほほ戸の由る本祝陽庵ある也此世の智識大徳なり

豊洞笹の庵と信る。以て蓋いふ不随り。日よ久る。蔵奇  
と信の蓋とありて。みこ。蓋とを海ふありたりとす  
とのうらやまはちうく。蓋の信をいふとありて  
少少のうらやまなり。つありたり。くん  
ありあり。ありとあり。女まらばはなれりたり

海にけさせし。葉の戸とありて。さう  
むらむらとす。市の林く。さの葉。信りあり  
とありあり。のもしありとありて

### 第一把まき一徳とありて

さもの部の外の下店

元本潤

証歩町 蓮観書古のありや。若此如く。遊り流之道に  
市阿保院佛、ト云。因言書希め。証歩町と。松原と  
信る。若何。信り。信すと。証歩と。名あり。道東止  
証歩ニ三人信り。この信る

水阿保福前祠 証歩由阿保の初情する所あり

庚申 塔 鎌倉二年申年あり  
古来ハ世取不蓮觀書古ハ入りあり

大工町 松郷ふ也。若大工何来。取之。町ありと云

は夜露町と四郎の場所と云ふは高保に成り  
火除の巻物と云ふは也

中系 此知は切支丹の事と云ふは高保に成り

三洋 伊豆屋と云ふは高保に成り

新長屋 古長屋 古新屋

新尾町 何れも高保に成り

新云は條屋味と云ふは高保に成り

新田町 新田新田と云ふは高保に成り

横新田町 古くは大久保町と云ふは高保に成り

裏門町 町名は由来を知らず

梵心山 高保に成り

表の中と云ふは高保に成り

民部 福前 町名は由来を知らず

中系 此知は切支丹の事と云ふは高保に成り

伊豆屋 伊豆屋と云ふは高保に成り

三洋 伊豆屋と云ふは高保に成り

新長屋 古長屋 古新屋

新尾町 何れも高保に成り

新云は條屋味と云ふは高保に成り

新田町 新田新田と云ふは高保に成り

横新田町 古くは大久保町と云ふは高保に成り

裏門町 町名は由来を知らず

梵心山 高保に成り

表の中と云ふは高保に成り

居し忽ち山林へ入りて歸りしを信す梵心山の瑞岳と民  
 戸編著く蒙免なる多怪の相治る事ありきり甲俗の膾  
 炙する如き事ありきり信す相治る事ありきり河城素題と云ふ  
 西町 堀田村ありきり 寛永年中堀田ありきり通町ありきり  
 大横稲荷 西町本戸除き初法由來之浮橋し西町橋あり  
 佛名山常行院ありきり

淨土宗  
 蓮宗古末

安心西雲法師 正保二丙戌年八月十日寂  
 此寺昔ハ清和町水の入りきりて僅の料置ありきり海城近ハ  
 是よりきりきり福ありきり天和年中きりきり  
 奉旨三尊 阿彌陀佛 袒師御影木ありきり  
 招撫觀音 長沙門 廣目天 無敵天

地藏尊

立像長四尺余 是ハ天代目板車塚左門多色  
 海抜勢害利有

二尊地藏菩薩

中尊止表菩薩 左下代表世印  
 右般若元徳印

此尊像ハ天代目板車塚左門多色  
 城外於沼に泥中より出たきり像ありきり板車塚ありきり  
 是より像と宝曆四甲戌年小笠原名見侯に藩士相浦  
 吉重次周より人信に像ありきり像を写し彫刻し  
 寺に現存圓周上人故より海原より寺に圓と近  
 來南よりありきり地蔵菩薩中夜瘰癧夜痛ありきり  
 甚痛ありきり祀りし人海原ありきり海とありきり商人  
 了進先東念ありきり又坂麻小豆園子とありきり近來  
 月とまじりと祀りし人ありきり  
 鐘 滋恩之 寶曆十辰辰年抄之 照譽上人代

結舟稲荷祠 天神祠 海磨にて神像 田島上人書中にてあるの図也

新家 西町表

松井茅 ヤシキ 西町西表 沃地場と申す言はぬ村氏と地所也

河原屋 西表先松井め言ふ集の屋と別業と一極と云ふ場

と蹟なりく僅く河原の言ふ言ふ、塚の上、祝言堂も是の

松井氏屋中の築山の海と

瑞階藏

通う町 江戸へは大街道なるは形云々

八幡文 西正社 馬よき言係

此八幡文ハ 西井屋は侯の殿中の言も多し此も地所也  
清くけ地々稲荷の祠のこりし書く言々未だ有

別當 萬壽寺

深山憲海法印

本尊阿彌陀如来

三尊作の洋一院、惠心師作と云

胎檀葉師如来

神樂殿 楳雨 稲荷 五天 管神

石表菱

此古物の中 鏡失は荒廢也 近來桑忌法印師て

西宮兵庫裡 門木再建は依白桑忌法印と申すなり

赤生 昔藤何桑忌寺なり地多し云云通う町の東裡也

是と別赤生と云ふ性多し方ハ他波多し

八幡新田 新田村分

号八幡山尊華院 天台宗

初代彼中流未分ハ森多院也

高松院二代目源居して母地ハ桑忌寺と  
法印坂ちくち河川焼失は唐の洋

三島町

三島町

八幡文 此の幡文ハ羽別ニ形ヨリ方々ニ見奉リ申  
惣惣清キ母奥別白川ノ福ノ幡別ノ旗立別ノ旗揚ノ  
福ノ幡ノ白中ノ字ノ地ノ移来ノ事也

三島町

比良尾畑

徳所流ノ事伏見住ノ事比良尾ノ事  
又ノ事伊予ノ事友利ノ事也

新三島町

大仙波新田 元禄年中 柳澤侯ノ時 藏者浦和若志ニ  
馬ノ形ノ時分仙波新田ノ所ノ馬ノ形丹ナリ 寛永年中 甲  
府ノ馬形封ノ所ノ馬ノ形也

道人山ニ流妙言古

中流宗

寛永 寛永 元甲子年 言 徳ノ又母道徳ノ方々 建三ノ事

又ノ法名ニ道徳ニ心ノ事ニ仙ノ字ニ別ノ道人ノ字号以人  
山ノ別仙ノ字ニ母ノ妙言大境ノ云別妙言古ノ事

本言 兼所也来

稲荷祠

寛入ハ西側本戸際ノ事  
言徳法名ノ事仙法ノ事也

菅神祠

菅ノ中ノ福西側ノ事初ハ妙言ノ事申三ノ事一ノ事母ノ事  
言ノ事一ノ事母ノ事一ノ事徳法ノ事一ノ事仙法ノ事

鳥頭板

仙波新田ノ岩村ノ事也

田圃雜記細細ノ事  
鳥頭板ノ事也

西宮院唯后  
道真

富士湊神社

仙波中流村

初法子曆ノ事

此湊旨ノ事社ノ事心ノ事一ノ事社ノ事一ノ事  
頂ノ事池ノ事表ノ事別ノ事毎年六月十四日ニ一法ノ事貴妙ノ形  
集一ノ事社ノ事一ノ事市ノ事一ノ事農人ノ事妻ノ事徳所流ノ事  
一ノ事農作ノ事一ノ事





御神領二百石 寺領五百石 合七百石

寺記曰

武列入東郡

中古入西郡ヲ今テ入東郡入西郡トキ

仙波彌星野山魚量壽

寺者江城之西北十里其地接武野倚川越竹樹泉石

實壯觀之地也古老相傳云昔日有真人名仙芳者

不知何許之人曾來于茲而道遙言曰過本昆婆尸

佛說法之遺跡者直以此地也當時眼界數里滄海

漫々而取舟航不可進歩矣時有一老夫來爾來

仙曰汝為孰乎對曰吾神童之所化而且此海之主也

仙曰請汝令我得一小地乎老夫曰諾仙曰我掌中有

袈裟所得之地與此大齊於是乃布袈裟于波上

則延及數十里老夫大驚曰今為神術故潭庭魚

地居為是如何仙乃留小池而復神童之居郭之東南

九町餘有小池祠矣天者是也又作土佛而投波底則海水忽乾

而赤脚猶可步竟營伽藍仙波之名據焉至

桓武平城之朝堂宇傾側而荒廢日久

淳和帝天長七年庚戌勅慈覺大師再置寺且

賜魚量壽寺之號水尊安彌陀左不動尊右

多門天又將一切經埋于堂後之叢中而上築一

小丘造二層塔中安釈迦多宝二佛而去塔之左祠山

王右置白山之社而山者神也其傍有法華三昧堂矣

傳布密衆闡揚妙法白黑之徒附而化者甚衆

土御門帝 元久元年甲子為兵火亡而實朝將軍之年此地兵亂猶可考

緇錫駭散而降魚能起旧業者滅跡廢名者殆九十餘歲

伏見帝 永仁四年丙申勅僧正尊海令再營焉

臨發言日以駕車之所駐為靈境之故此行至

三芳野邑有一小橋牛及以不進傍有野婦

種林謠歌者一婦歌曰十行出假之菩薩者習

圓之魚作乎一婦應曰習不習觀所依之文亦

須更有一點星放光飛堂後數十步竹叢中海乃悟

為靈境而造堂奉佛至星野之名本此

後奈良帝 天文六年丁酉七月十九日北條氏綱攻河

越城而與上杉朝定戰大克殺城當此時堂宇

經籍悉為兵燹滅而後地屬葛晃者五十二年嗟

呼尊海没而佛色寢靈境廢而法不起台徒

無不感頌者焉

後陽成帝 天正十六戊子歲慈眼大師初管此自患

靈區之荒蕪而心要再振宗風也時

源君大權現奮起下東別素與師相好一日

源君問師曰東八別之中為名家之雄者為孰乎

對曰魚如魚量壽寺者上

源君乃有復嘗之志慶長十七壬子年

源君獵遊河越之日偶過茲自採津繩而為昼地

令源忠利監事

河越城主酒井備後守

崇宗慈模天長

之營

後陽成帝 自書星野山之三大字乃賜焉乃顏屋頭

改本尊安乘師佛 新造慈惠堂經藏鐘樓僧

舍若干間不日成矣終造爾來結夏之僧歲不

暇數而遠近緇白所依歸者亦不為少矣

源君權現夢後慈眼大師 新營

東照神君之靈廟於此處矣寬永十五戊寅年

左大臣源家光公復改造之令堀田加賀守正盛

河越城主

知其夏金殿碧廊巍々焉煥々焉唯清唯靜

洋々乎如在矣大師嘗管茲五十六年而化法印

倫海繼之未幾寂僧正周海次之明曆二丙辰歲

右大臣家綱公命 伊豆守源信綱 河越城主 修營

靈廟堂宇寬文元年壬午周海就信綱乞靈

廟之祭田 時信綱執天下之大柄 信綱以聞竟加附官田二百而

供

東照宮之次盛矣寬文十一辛亥年復悉終藏令甲

斐守源輝綱奉事 信綱子繼主河越城 嗟呼微尊海不能

起慈覺之業不有慈眼大師不能振二師之類風

後世居職於此者豈可不仰乎

夫當山之監錫ハ仙芳仙人之奉傳錄記之載之如く上右

此地渺々たる氷江海の如く神意行々々々仙芳仙人汗

新く乞請す 仙術と云く波止り法波の事なり或は七佛  
及山人翁之形を仰ぐてあり座す 地を陸地と爲し倭の  
一山池を砂しく神跡と稱し思ふ世地の過去に倭尸佛  
說法の地と云ふと知る佛の坐場と云はれ仙波名流の記  
異山慈覺大師 人皇六十二代淳和帝御宇天長七  
年度奉依勅帝仙骨仙人の故地と記し毎量歩ちと云  
て志を止觀二道と云ふ事なり阿蘇陀方と不動尊有  
多の事とあり 諸重竊有る故に室息隆有る  
聖昌二百七拾余年よりなり 人皇八拾三代七御門院  
の御宇元久元甲子年 國家形實朝將軍の年表に記り  
あり世地の事未考  
神社佛岡一時焼亡し後九拾餘年より荒廢しあり

牛馬と叙つし 再皇言海傍の 人皇九拾一代伏見  
帝の御宇永仁四年甲午の歲 勅帝と牛車の條下  
武の三才野の事 仙波の地ありと云ふ一の少橋久保河出  
橋也下云  
ゆゑ牛跪為し 浮島と云ふ野婦二人田蓑有る  
言答する事十行の暇と菩薩の事と云ふ 海有るの  
多異の思ひと云ふ 所々南の力と云ふ老朽の物と云ふ  
と光と云ふ 現と云ふ事 皇神の事 言海の事 世地の佛の  
坐場と云ふ事と云ふ 地と云ふ事 仙子の四行慈光の坐地  
身におわく言海荒廢の神社佛岡拾坊經典ありと云ふ  
再建しと云ふ 皇神の事 言海の事 佛地院と云ふ事 何れに  
院佛の事 言海の事 言海の事 言海の事 言海の事 言海の事  
言海の事 言海の事 言海の事 言海の事 言海の事 言海の事

高帝 御宇 天武六年丁酉七月十日 小澤氏洞之  
者、以城墟之上移、言朝定、取心、置、落、城、之、所、之、他、彼  
之、佛、岡、經、是、吾、之、方、一、時、之、原、於、之、也、也、也、  
而、其、後、二、年、の、旨、荒、廢、也、

中興 宇山 慈眼大師 人皇百八代後湯成帝

馬宇 天正十六年 奉て海傍正師御座、

大神若師 然、日と遠山月とまゝ、神社法重  
坊舎悉くて、管と換、之、莊嚴、然、生、如、時、之、如、言  
と改て、藥師佛と改、因て、當山、之、藥、劑、之、他、芳、師、人  
宇山、八、景、覺、大、沙、再、建、と、言、海、傍、正、中、興、宇、山、八、景、  
昭、大、沙、也、凡、景、覺、之、景、奉、天、長、七、庚、戌、年、之、高、和、元  
辛、酉、年、之、凡、五、百、七、拾、二、年、之、古、刹、也、之、東、八、州、之、台

家々 権、

藥師堂

南西 初ハ大堂云  
今稱 師奉地堂

廣長十七子 奉 師 建、立、也

本寺 藥師也

慈眼大師、作

大師、師、作、拘、摩、  
佛、師、之、初、也、

胎檀 日光母 十二神將 四天之主

安、

此、藥、師、堂、ハ、元、和、三、丁、己、酉、二、月

大神若師遺骸 跋、跋、河、久、徒、山、野、明、口、光、也、師、以、安

之時 沙、曼、因、之、二、月、在、三、百、八、日、市、上、之、高、檜、と、云、也、

東照宮 師本社 幣殿、之、少、ハ、古、所、建、也、記、之、也

随方門 勅額

後、ハ、尾、帝、師、震、等

銅燈籠 石燈籠 數多 河、師、師、滅、之、師、也、

敏子。唐正以不為一之ハ記世

高麗初 根来出雲古々所ノ年号不知

石脚正味録 寛永十四丁丑年 依久同右道将監奉

猷所也初ハ 脚水城ノ脚社前ノ所一と云々ハ

石階 幅五尺余 二十段 腰返石階五十八段

石脚善表 寛永十八戊寅年 堀田加賀侯寺納之

脚供所 石脚橋

辨財天祠 脚供所ノ北邊中ノ所

大師堂 慈惠大師 脚自作ノ尊像

大師禱々言源俗時ハ水滸氏直江源井那ノ人

延喜十二壬申年九月三日如生、如親 二百戌年正月二日

嵐岡ニ後元ニ大師

福檀 云大明之雷神 傳蘇大師 慈惠大師

善海神正云々 脚影 安堂ノ

此堂ノ成中ノ大空ノ享保十九年九月五日脚見云々時至

尾平ノ成中云々云々云々云々 脚用惣云々云々云々云々

何々ノ一ノ空ノ四ノ人ノ福云々月々大空ノ東南ノ方ノ和羅

福々空の上ノ惣云々横空向の言一ノ道乾之言一ノ乃也一ノ道

東ノ言一ノ横空向ノ繩と下ノ言一ノ横空向ノ繩ハ云々云々

此ノ言一ノ横空向ノ繩と云々云々云々云々云々云々云々

對一ノ云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々程年久々云々云々日數勤行禱罪ノ信於之信云

傳子化し孝同しと云ふ事も極む所なり。或は建武と  
人々之を言ふ所あり。所の坊室は唯と乞ふ事この言ふ  
謝して他波と去りて其狸の穴多しと云ひ或は狸の物  
と云ふ中を狐狸の足跡と

東照宮の御使獄ハ狐ありと云眼大師御侍記等に記され

多しと云ふ所ありて之ハ宜なり大蛇と云ふ

沙羅雙樹 和名若栲 菩提樹 其大師坐す所

石水盤 元禄十六癸未年十一月三日 形々 乃房

冥山堂 慈眼大師の像并高麗山歴代の御影とあり

慈眼大師姓ハ藤氏父ハ足利法性院御後將軍

馬季子母ハ宇津屋名盛高の娘と云正七庚午年

に誕生父を諱之 一年 費也と後母に流し奥州金沢

より外祖に姓と習して一旦平氏と云十一歳に臨

誓堂に辨誓し附て祝誓すと又百名の敷山と云

神形と云々云々東へ水海元年母に病守に因て

於中野園宗光より居る後又敷山と南光坊遷すと

正十六年敷山に成守 慶長十八癸丑年 養

釣命 日光山にあり元禄二丙辰年精と轉して大

僧正に成寛永二乙丑年依

台命 東叡山に奉刺し寛永八年癸未十月二日

端座して入寂世壽百三拾四歳 於東叡山遷化 干日光山葬 慶安

元成子年十一月十一日 遷 慈眼大師

一説、大師ハ大布記藏忠に見俗姓中宗氏と云

慈眼大師碑

師影重々有り  
寛永九年十月廿日  
天海流海建之也

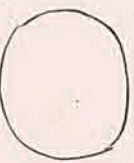
長安院殿石碑

天海流海建之也  
十二月廿日  
天海流海建之也

亦古大心古碑二基有

梵字橋

任善上人  
政海法下  
心冥法下  
多海法下  
過去  
源檢律心  
念海律心  
念海律心  
急海法下



現在 澄海周梨 曆應八月

佛云世二碑曰待々倍善之碑也

曆應八年八月廿日  
近元日百五十一

梵字橋

僧澄嚴  
沙弥妙性  
沙弥戒佛  
日佛乃  
沙弥西道  
日妙德  
日道法  
是淨法所

于時 延文三季戊戌十月八日

一階法所

延文三戊戌年より高知元年丙申迄四百日括四年より

書々世昔古流々心能々也々々好古家院々々

大神居 駿府所 在城々 寺所 建立之也 活板ハ

大猷公 所 寄附也

樓門 鐘 大猷公所建立  
依破 鐘所 有

今懸る 知の 鐘ハ 歳有公所建立  
汲文 畧々 義天淨正代也

書院 大猷公所誕生之同々々々 爲す 所 淨附々 探出 法下々 画  
法々々々々々 知々々々

円佛 二尊 阿弥陀佛 初ハ 所 佛を 在 寺々々 以 因々

毎々 寺々々 寺々々

室 務 寺 中々々々  
神 飯 寺 中 室 物 数 品 畧々

三 位 胎 所 祠 寺 所 庭 中 畧々々々 法々々々 在



昔昔海神の心より牙指四世 冥海神の心より 啓卷積徳  
善道よりおろしりる如或時を際とすし 廣海の打りし止世  
妙取山より興く花きりぬふま時二信くまよし僧庫裡り味  
當と指くはしりし 洲の坊の帯くしゆりしとすし 師海と慕  
連木と投接有ゆか幕とすしとすし 花きりぬ色日しゆりし  
世在中より信くしりぬ其知とあつて二信臨るく蒙免初と  
當と建つは因縁より信くし山終とすしゆりし 連木と幕  
とくしゆりしと慕はしりぬ深て終とあまて必ゆり有て  
さきと支所のおつりしと 禁於これ名  
一説く 禁於これゆい 禁山神話と禁ゆりしとしと信くし世信を  
海神の飛りしゆりしと南光信者く云く 禁ゆりしとあつて終と  
古鐘 庫裡と幕とすし 詔曰

武藏國足立郡鳩井郷

管崎山

依慈母命奉鑄之

正安二年 庚三月十八日

源景恒

世續り昔仙波とく源田とく同とくしとたり 鳩井とく今足立郡  
鳩ヶ谷のゆりしとすし色の八幡宮の鐘也多紀とく時とくは仙  
波と持来りしゆりし 正安二年の享和元あると書すは古鐘と

中つ けつて海神の御棟札表と梵字 卍字 四天王

英と海神の御名 大工 源景恒 山本若狭と古鐘 木名

同御棟札と表書曰

武陵仙波東叡山无量壽寺喜多院

維時寛永壬申載霜月吉日

此の山野山と云く東嶽山と稱せしや又上野寛永  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山

多寶塔 歌也多宝 二首あるを 兼作重なる

此の山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山

田舎山王社 多宝塔 好殿 寛曆十三年 意の御代

此の山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山

此の山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山

或説は田舎山 日吉 といふは 此の山野山と云く  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山

此の山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山

祭禮 四月初申日也

後三条院日吉の社に入りまはりしるう 桑越山の寺

此の山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山

此の山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山

此の山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山

此の山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山  
と云く山野山と云く此の山野山と云く此の山野山

白山社 多宝塔を祀る 慈覺園を祀る 地神 仙尊 仙人と

祭り別け 白山 拾遺

福魔堂 在る所の山 皇泰 在る所の山

坊舎 心鏡坊 常行坊 星行坊 内務坊

仙鏡坊 廣仙坊 明星坊 各十石 石段 祀る

明星井 明星杉 其の山野山と云く表有

昔言海僧心半来、  
新明堂此井中、  
乃中、  
南院

東教山の日光堂も、  
日光坊、  
東教山の日光堂も、

雪天祠、  
梅清も神の法心や、

折花  
鳥宗成

流る星野山橋おほ、  
の珠花、  
賽の足妙、  
依正の、  
悟、  
折花

園林求、  
堂殿露、  
春日雜花、  
花守、

花守、

翻らば雨の満院 蜂蝶春暮煙

詠梅元

宋景濂 大の人

黄卷日辛 暨於唐

如彼牡丹 兼海棠

碧草 題呂所 雜画

秀風 終夜 雪吹香

讀心集

はくたてー花はさくまゝあめりのふもまゝぬる清き 小枝所産 長好

あのはくたてー花のさくまゝあめりのふもまゝぬる清き 小枝所産 長好

山梅 夢の神と ちかほひし 夢の神と 夢の神と

夢の神と ちかほひし 夢の神と 夢の神と

梅人の ちかほひし 梅人の 梅人の

秀風と 夢を たり 秀風と 夢を

本風の 夢を たり 本風の 夢を

夢を たり 夢を 夢を

夜の 花月も 掃も 夜の 花月も

ちかほひし ちかほひし ちかほひし

夢の 夢 夢の 夢

碧の 花 碧の 花

初梅 知る人 初梅 知る人

と 夢 と 夢

花の 夢 花の 夢

夢の 夢 夢の 夢

山梅 夢の 夢 山梅 夢の 夢

敷うみくく皆人びん〜つら〜むも風をる病の心 菅江  
了る如凡とつはり梅む〜夜の色草の白き 貞秋

中院 丁字家康敷山末  
号屋形心多多奇

古殿三十石

星形山三塔〜門名ら中央〜も信台中院〜結以

宗心 慈覺大所 流ら帶鶴木木多雨〜月〜

奉堂 石原院如史 信控祀所 軍山木の海影

歌也堂 奉堂〜南〜も 妙善場〜おの〜延命寺

中〜う孝行念佛と修り何〜寛政十二と未半〜四角に

白日〜回向も 於不形念佛多々忘懐

百拜観音堂 西國坂東秩又札所と換〜〜西堂

横門 鐘 橋上〜も 滋畧之

辨賊天社 喜多院東南〜も 竜池毎天〜云

妙安殿〜も別福記〜云也のや々 仙寺仙人語神の爲〜

一山史と雲〜も 意〜神竜何〜も信台每殿〜も

崇免〜も〜も〜も〜も

御神木〜杉 大サハ六圍 室〜奇絶〜老杉多〜

橋社 福翁 夜彦神 庚申

石表羨 石階 石言麗物

御神木〜杉 大サハ六圍 室〜奇絶〜老杉多〜

星野山 井竜甫

天邊雜奪令莖露穉在神木出草圃 張旗盛

来心若〜も 須疑烟熱属〜人裏

原風を祈る志の如くは情ありしに於て三輪の素顔 兼り唐 辰好

瀑泉 古社に集り清くあり 清浄の原を留くく浦の

美石 大黒石

此所平流あり如く  
山石也大なりこころ清く

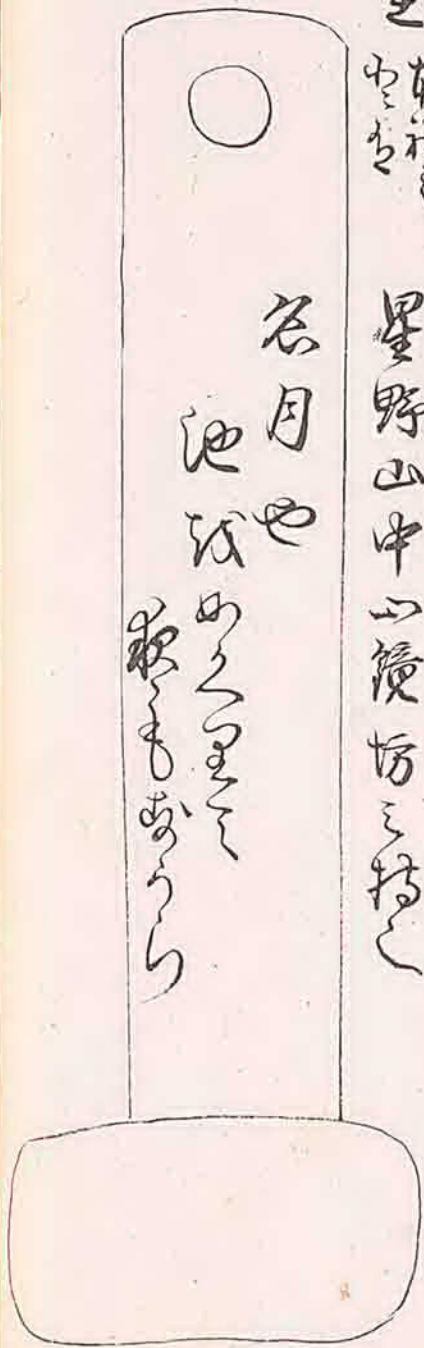
此二石は池中より出る生息山石と集りて一景とあり

の形自多し意は亦大黒の如くありしに名附く室の

化ありし人此類石に後圓蓋棟那山川村より

より云致流く石種くまハ耶也雲根結くまハハ臨に

庵室 古社に 星野山中に後坊に持く



名月也

池辺の石

石もあうら

此碑ハ白川と布祿の建る如くありと布祿名ハ源恭

字子禮亦名あり孤琴あり号あり

標 ○ 寛政三年 辛酉 秋八月

十五日 碑成 而建於此波

天女初之傍に芳野里菜 占布祿識

名月ハ新碑通をと教もさめり 占布祿

月もやまきとらりてせむの一角 榎原 其馨

堀一ツ廻る牡丹の根分る南 水心舟 雙鯉

石と石指くせんりふの月 東都 箱に 完美

風流くよきと啼あり庭に月 東都 箱に

雀河原 毎月の標と 板山 毎月の 氷川祠 板橋 毎月の

横輪新町 實親 海傍正杭 古より名の繁りたる所

小仙波村 愛宕祠 不動堂 昔は海傍に車馬あり

琵琶橋 小仙波に河越入りたる

昔は海傍に海傍正杭ありし時盲人琵琶を橋に  
海に流ししを名にす

### 琵琶橋

無名氏

若古城南路琵琶堂有名溪々橋下氷竹写四登亭

今も其花々つらせし琵琶法師 維迪

半車橋 久保町出下り橋と云海傍正の舟あり

半車の上り所の橋あり 半車橋と云ハ也

久保町 ねがふ地形低く舟の多し大文岩掘りの跡あり

浮島稲荷祠 初清朱曆より詳し浮島に祠あり

の芦沼の中よりあり出たる地より文吾より浮島あり

赤言敷多川より稲々云女方お投ししと浮島

と云と云ありしと云と云と云と云と云と云と云と云

尾崎の松 若古大鞍の尾と云し而ありのり云と云

尾崎の松 若古大鞍の尾と云し而ありのり云と云

言く山の尾と云くのり云と云と云と云と云と云

観音橋 浮島橋のり外杉下の首入り田中の少橋にけ橋あり

隠居田 由來 島居田 由來 けり各河越赤藪 浮島

見色の松 杉下の田 伊豆屋の棟知し玉溜と略す

河作派 河越し東岸より南小十町東岸に丁橋あり

鯉新 鰻鱺 水と春ににまき 漢す云りあり

沼中の荷花の白燭燦々として西と南の少女を  
送る採蓮了佳真の詞

採蓮曲

源 璵 石

十五採蓮女羞人不出花青荷如小扇  
試折一枝遮

其二

打起鴛鴦見莫教棲綠池三年江上別  
又及採蓮時

同

皆川 愿

別渚少風花亂開移舫搖漿獨徘徊偶  
因葉底輕波動知是有人相逐來

藥師堂

伊佐沼岸にあり

本尊 藥師如來 弘法大師作 昭禮十二神將

此寺像の経古く世所より一の云々 河井深波彦

事と建立を後七柱とて河井深波彦再心修理と

ありし事と来りし始末ありし事

別當 醫王古

天台宗 河井深波彦末

觀蓮

檀 正 庸 擇卿

曉月沈林下蓮花法相間如畫瓊草動千葉  
翠流采色媚佳人雙香深若子顏因即歌去後  
唯見水漲く

何事の天の懸るく蔵を掃田の池くを以て

ありし事と来りし始末ありし事 餘の聲や蓮の花 橋 其 聲



夏日伊作沼泛舟探五色題

蓮葉一層の如く沼の底は青く  
 名も知らずとて虎溪と蓮の相象  
 赤 田の草の心はまじくやまの心

今ならぬ一帯の如く沼の底は青く  
 赤 花は清くとも知らず深の麻衣

武蔵野 堀糸の井

近き

十回  
 其聲  
 宗梅  
 維迪  
 雙

堀糸の井を河原南二里余堀糸村あり此村は古くは沼の  
 社あり同じ沼を堀糸と云ふ今堀糸の社は廣くは  
 相承伊豆原 而社拜殿也 函建立也

別當 慈雲菴 河原高松院持し

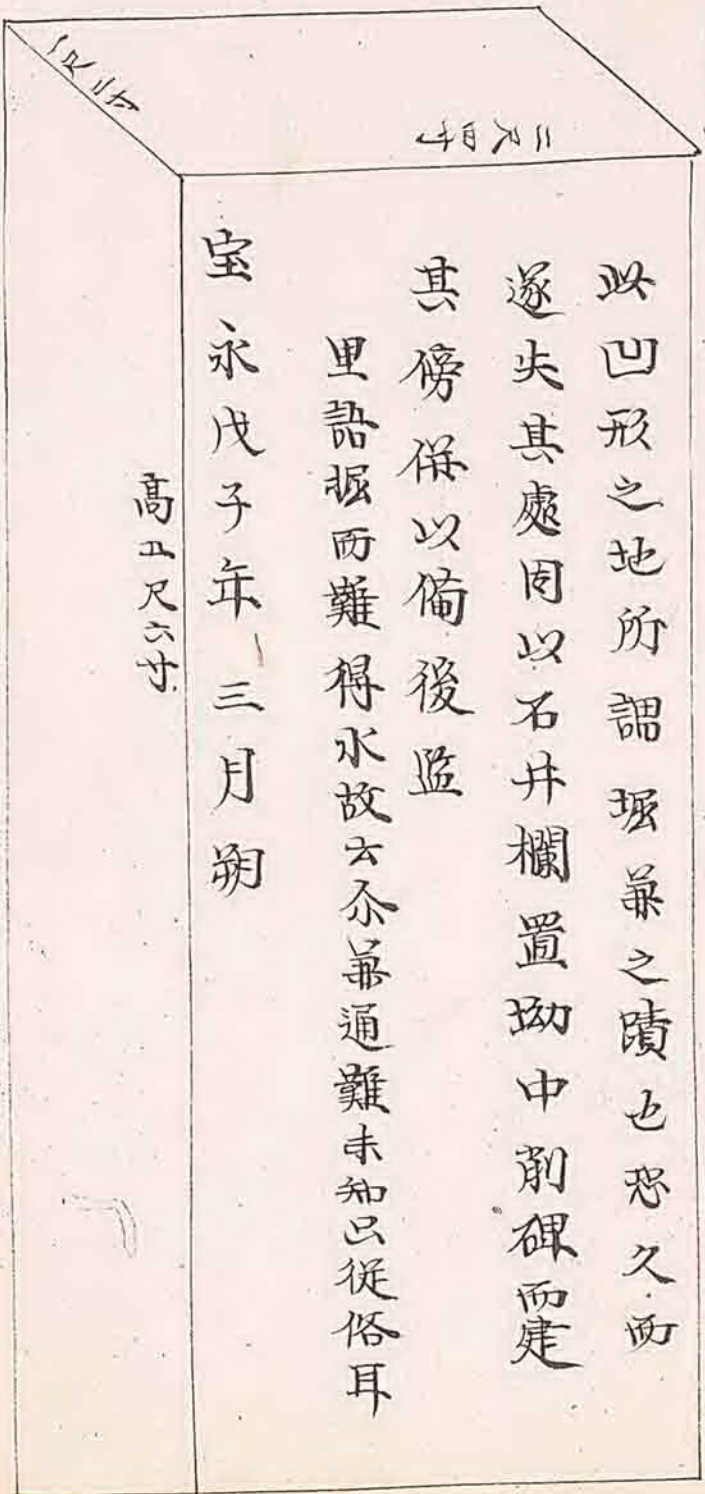
井を沼の社のまじりて山の裾の左のまじりて方二里半の

ナカシホ

乃地を中とて又方二里半の石の井物中は古くは堀糸  
 ありては別堀糸の井の室蹟あり 傍に塚あり 堀糸  
 又は子孫に元辰と云ふ岩田氏に建る古蹟を失は

文撰西都賦

玃  
 クホシ  
 ナカシホ  
 ナタウカ  
 ナフス



此凹形之地所謂堀糸之蹟也恐久西  
 遂失其處因以石井欄置玃中削碑而建  
 其傍保以備後監  
 里語堀而難得水故云余輩通難未知只從俗耳  
 宝永戊子年三月朔

高五尺六寸

此処と遠く堀糸と云 堀糸の井と稱する

知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の  
 知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の  
 知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の  
 知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の

知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の  
 知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の  
 知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の  
 知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の  
 知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の  
 知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の  
 知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の

武蔵野のほつり井の井の底まで水を汲み上げて

知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の  
 知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の  
 知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の  
 知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の  
 知る一ヶ所と七町、福も井流りしやまといふ所の

とる... 母府... 多の... 山... 甲人...

元... 堀...

四... 堀... 拾...

武... 堀... 堀...

若... 堀... 山... 尾... 麻...

萩... 萩... 山... 尾... 麻...

一... 萩... 尾... 麻...

らけりる... 海... 旅人... 不二の根...

清... 井... 井... 井...

色... 生... 葉... 子... 如...

たり... 如... 如... 如... 如...

遊... 遊... 遊... 遊... 遊...

忠... 忠... 忠... 忠... 忠...

あ... あ... あ... あ... あ...



あさけのついでにさかきとておどろかす

あさけ

梅子 蜜

あさけはあつたまはしむはつたてり

暮 緑のさかき

十回

あさけ

福井

あさけのついでにさかき

あさけのついでにさかき

千代

あさけ

あさけのついでにさかき

あさけのついでにさかき

あさけのついでにさかき

あさけのついでにさかき

かゝる物もふりてありていふもなするものなりとせば  
つゞき見んとせよとらるるものもみよとせよとらるるものも  
あはれ〜〜とせよ

河越産物

まめの  
お女

黍麩

餅 瓦

合志桑  
沼ま桑

モヤシ  
福 活

宗 當 瓦

今福 紫瓦

小麦

他邦より小麦を扱ひ移し〜〜目方減は河川の

小麦を粉にする〜目方増は粉も〜〜とせよとらるるものも

坂〜〜河川小麦を〜〜黄鼠と如明と福の黍麩も

河川小麦と好んで用ひ〜〜近來武の小川〜〜製法も

黍麩も〜〜河川小麦も用ひ〜〜海門〜〜

公時 取豆

豆を〜〜粒の大サ大豆のみ〜〜濃取の〜〜用ひ

馬 豆 絶 糸 子

崙山 葛 葛

形々〜〜豆屑〜〜製法

絹 平

麦漉〜〜用ひ〜〜住居や近來ふら〜〜信ら織り

生 箔

白 葛 織

吉 綿

白 布

小 糸 織

佳 文 席

醬 油

紫 柴 炬

枯 板

乾 杖 杖

藕

初 草

籾 入 石 川

細 餅 履 襪

襪

編

都て雑報の交易ハ武彦國中ノ江戸の都ハ河紙  
冠ノ竹本新岸板也ノ類モ秩父ノ交通ニ  
河紙岸の者新河岸と稱ス江戸ハ此ノ類  
亦江戸ノ河紙ノ運送ニ由リ揚々ノ一ノ也  
繁茂の一海也

今ハ大ハ島ノ浪ノ流ニ屬代々ノ民  
堯天舞ハ此ノ流ニ由リニ 仁徳延喜ノ代  
也シマハ島ノおはん時ヨリノ都ノ圖ナク致  
シテ河紙ノ都ノ名取ハ此ノ流ニ由リテ  
武彦ニ寄ル名流圖會ニ由リテ大人志子の

最ハハせんノ都ノ流ニ由リテ唯兒女の目と云ハ此ノ  
流ニ由リテ

一ノ也 橋 齋 齋 齋 齋

惟時亨和辛酉年 壬子終日

題三芳野名勝圖會後詩

武藏國志不傳久古跡靈區名空朽  
莽蒼之野八百里茫茫霽々幾培塿  
萬葉千載和歌詞只說曠漠寄所思  
草間月從草間沒霞外山偏霞外移  
堪仰昇平三百載千邨萬落人如海  
野雲散盡竈烟騰原草燒罷棄田改  
多是名朽跡而湮獨有三芳野神在

奉社綿々永不絕威靈赫赫列鼎龜  
玉川之陰入間郡河肥名區不荒曠  
維昔杉氏領國東宰臣太田據武中  
遂城此地為要害遠拒信越振威風  
而後嚴然大都會人富土肥四境通  
時清政泰多和樂土人風物都且嫺  
破寺土階布黃金古城茅社施丹雘

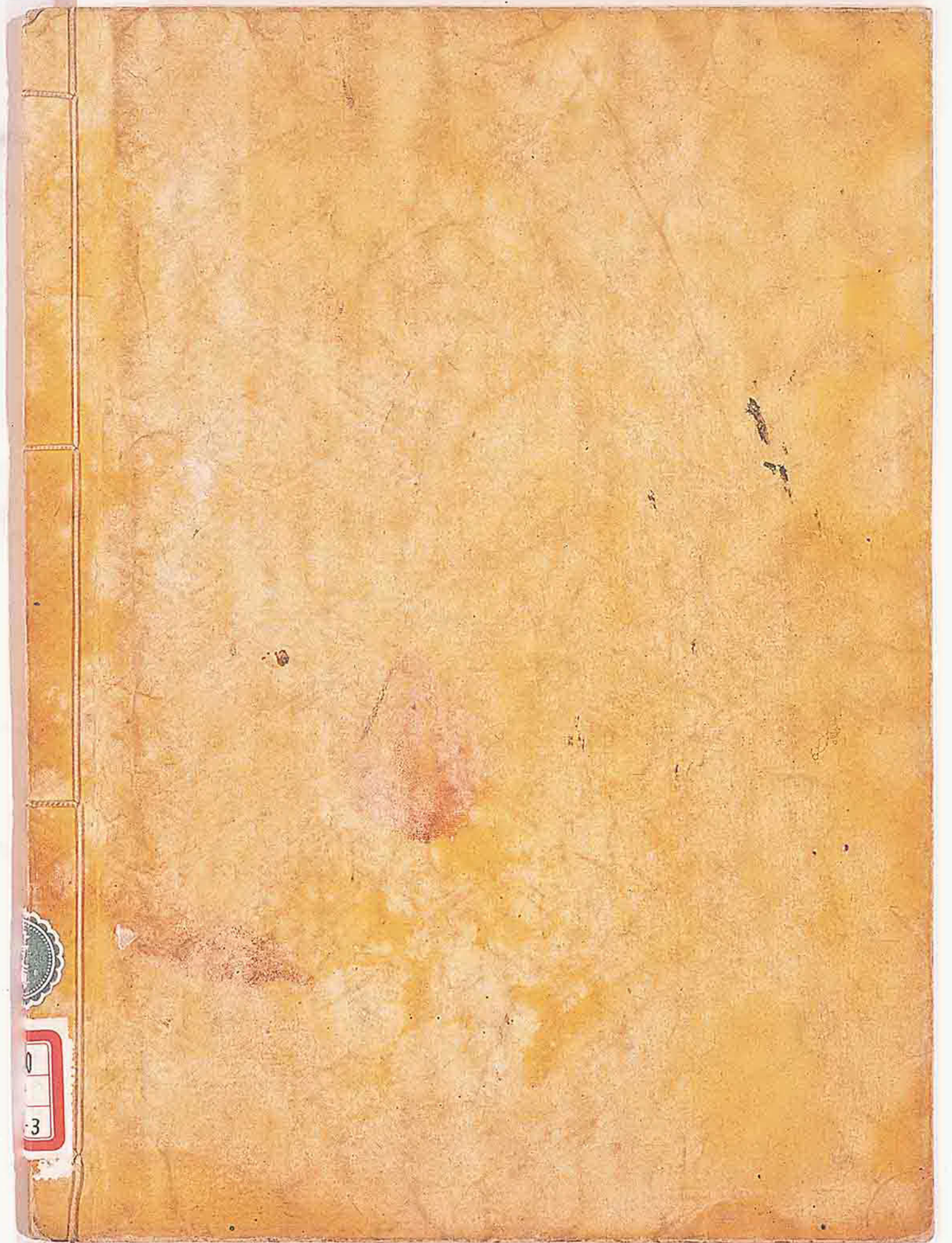


糟丘月山閣亭榭歌塵舞雲鎮樓閣  
假睡何羨邯鄲夢遠遊魚意揚州鶴  
訪雪趁蟹興幾瑒賞花晏月醉一鄉  
行樂之地偏不宜名勝之跡傳更長  
里正濟羨影風流好畫嗜書右文章  
圖會集成魚遺漏一城壯觀一相簇  
恰似當年左太仲蜀都山川待賦秀

點山管清成識

享和二年壬戌臘月五日





0  
3